

感染症法第13条による獣医師の感染症報告数

疾 病 年 次		一類感染症			二類感染症					
		エボラ出血熱	マールブルグ病	ペ ス ト	重症急性呼吸器症候群 (SARS)			結核 ^{注2}	鳥インフルエンザ	中東呼吸器症候群 (MERS)
					(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る)				(H5N1又はH7N9) ^{注3}	(病原体がMERSコロナウイルスであるものに限る) ^{注4}
西 暦	元 号	サル	サル	プレーリードッグ	イタチアナグマ	タヌキ	ハクビシン	サル	鳥類	ヒトコブラクダ
2004	平成16	0	0	0	0	0	0	－	－	－
2005	平成17	0	0	0	0	0	0	－	－	－
2006	平成18	0	0	0	0	0	0	－	0	－
2007	平成19	0	0	0	0	0	0	0	5	－
2008	平成20	0	0	0	0	0	0	0	5	－
2009	平成21	0	0	0	0	0	0	0	0	－
2010	平成22	0	0	0	0	0	0	0	9	－
2011	平成23	0	0	0	0	0	0	0	72	－
2012	平成24	0	0	0	0	0	0	0	0	－
2013	平成25	0	0	0	0	0	0	0	0	－
2014	平成26	0	0	0	0	0	0	9	0	0
2015	平成27	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016	平成28	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2017	平成29	0	0	0	0	0	0	27	0	0
2018	平成30	0	0	0	0	0	0	2	0	0
2019	令和元	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2020	令和2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2021	令和3	0	0	0	0	0	0	0	4	0
2022	令和4	0	0	0	0	0	0	0	88	0
2023	令和5	0	0	0	0	0	0	5	83	0
累 計		0	0	0	0	0	0	43	266	0

疾 病 年 次		三 類 感 染 症	四 類 感 染 症	
		細菌性赤痢	ウエストナイル熱	エキノコックス症
西 暦	元 号	サル	鳥類	犬
2004	平成16	0	0	0
2005	平成17	45	0	5
2006	平成18	45	0	2
2007	平成19	51	0	1
2008	平成20	29	0	1
2009	平成21	34	0	2
2010	平成22	59	0	1
2011	平成23	37	0	0
2012	平成24	2	0	0
2013	平成25	5	0	0
2014	平成26	6	0	1
2015	平成27	6	0	0
2016	平成28	5	0	1
2017	平成29	3	0	0
2018	平成30	1	0	8
2019	令和元	5	0	2
2020	令和2	6	0	3
2021	令和3	10	0	2
2022	令和4	3	0	1
2023	令和5	16	0	0
累 計		368	0	30

資料:「感染症発生動向調査」

注1:2004年(平成16年)の細菌性赤痢、ウエストナイル熱、エキノコックスの報告数は、10月から12月までの数値である。

注2:結核の報告数は、2007年(平成19年)4月1日からの数値である。

注3:鳥インフルエンザ(H5N1又はH7N9))の報告数は、2006年(平成18年)6月12日からの数値である。

ただし、2006年(平成18年)6月12日から2008年(平成20年)5月11日まではインフルエンザ(H5N1)の鳥類としての報告数であり、2008年(平成20年)5月12日から2013年(平成25年)5月5日までは鳥インフルエンザ(H5N1)としての報告数である。

また、数値は、1箇所における複数鳥類の発生の場合はまとめて1例(1件)としている。

注4:中東呼吸器症候群(MERS)の報告数は、2014年(平成26年)7月26日からの数値である。

注5:報告数は、感染実験等の学術的研究による発生を除く。